様　式　C－１９、F－１９－１、Z－１９　（共通）

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：３３９１７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００００１

研究課題名（和文）「永遠の今」と体験ー西田幾多郎における美学と時間論

研究課題名（英文）"Eternal now" and lived experience - Aesthetics and theory of time in Kitaro Nishida's philosophy

研究代表者
ＦＯＮＧＡＲＯ　ＥＮＲＩＣＯ（FONGARO, ENRICO）

南山大学・南山宗教文化研究所・教授

研究者番号：９０４５７１１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、今まであまり研究が行われてこなかった西田幾多郎の美学について、次の3点を目的として、時間論からのアプローチを行ない、同時に関連文献をイタリア語に翻訳する。１）西田の思想の発展に伴う芸術哲学の変化を、時間論との関係において論考することを試みる。２）晩年の西田に見られる「永遠の今」という概念のうち、特に「永遠」の意味について西田の芸術論と時間論を結び、ドゥルーズを中心とした西洋美学・哲学の観点から比較・考察する。３）上記２点を行なうために不可欠な作業である、西田幾多郎の著作のイタリア語への翻訳および注釈を順次出版し、イタリアをはじめとしたヨーロッパに向けて研究成果を発信する。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の成果は、西田幾多郎全集イタリア語版のうち3冊（第2巻，第6巻および『私の立場から見たヘーゲルの弁証法』）の出版、および論文の出版につながり、それをもとにコロナ禍を契機として国際的なオンライン研究ネットワークづくりを行ない、活発に研究集会を開催することができた。本研究は、間違いなく異文化間コミュニケーションを促進するものである。研究集会への参加者、あるいは論文や西田の翻訳（イタリア語版）の読者は、古典的なヨーロッパ思想とは異なる思想に触れ、多様性や他者性を理解し、異なる哲学や宗教との相互理解や出会いに積極的に貢献する可能性を見い出すことができたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In the past works on Nishida's aesthetics, a topic almost neglected in research on Nishida, I addressed aesthetics in relation to a theory of time and at the same time published translations related to the same topic. In doing so, I had the following three goals in mind. (1) To discuss the changes in Nishida's philosophy of art in relation to his theory of time. (2) To connect Nishida's theory of art and his theory of time, particularly with regard to the meaning of “eternity” in the concept of “eternal now” seen in Nishida's later years, and to compare and discuss it from the perspective of Western aesthetics and philosophy, with special attention to Gilles Deleuze. (3) To publish Italian translations and commentaries of Kitaro Nishida's works that are essential to the previous two points, and to disseminate the results of the research in Italy and other European countries.

研究分野：哲学

キーワード：日本哲学　　美学　　時間論　　西田幾多郎　　存在論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本申請課題は、2 つの先行課題「「現在の平面」―西田幾多郎における時間論と存在論」（基盤 C、平成 25−27 年）および「「ファンタスマタの世界」―西田幾多郎における美学と時間論」（基盤 C、平成 28−30 年）において得られた研究成果を継承し、発展させるものである。研究代表者はこれまでに、西田幾多郎の各時代の著作において、「時間」がどのように捉えられているかを、イタリア語に全訳しながら分析してきた。その過程において、西田が前期から後期へと独自の哲学を発展させながら、プラトン主義的な「永遠」から、それとは異なる「現在の平面」のような「永遠の今」の非形而上学的な時間論へ進んでいったということが分かってきた。

西田の著作には、「「芸術哲学」としての独立のものはない」（[1]p.408）とされるが、初期から晩年までの全ての時代において、芸術に関する記述は多く見られる。初期には美学に直接関連する『芸術と道徳』（1923 年）があり、西田とフィードラーやカントとの比較研究は国内外ですでにいくつか行われてきた（例えば[2][3]）。しかし、西田晩年の芸術論についての研究はほとんど見当たらない。

「西田の思索全体にわたって芸術は宗教とともに、常に大切な箇所で、自分の思想の正当性を確認する＜例証＞として取り上げ」られている（岩城[1]pp.408-437）。研究代表者は、2 つの前科研費課題によって時間論の分析を進めるうちに、岩城が述べる以上に「「芸術哲学」は、哲学的思索全体と絡み合っている」（[1]p.408）ことを確信してきた。つまり、西田の時間論を考えるためには、存在論だけではなく、芸術論（美学）の観点からも検討することが必要であることを再確認した。逆に言えば、西田の美学には時間論からのアプローチが不可欠であるということである。

西田の美学において特徴的なのは、初期の『芸術と道徳』に見られるように、芸術を「身体の活動」とその時間性ととらえている点である。スピノザの言葉を借りて言えば、「我々は我々が永遠であると感じ、それを経験するのである」（『エティカ』5p23s）のように、初期西田でも身体で「今」の経験を深めるのが芸術的体験の特徴であると思われる。しかしながら、身体により「永遠の今」の体験をすることがどのような意味を持つのか、また身体そのものには何ができるのかという点については未だ不明な部分が多い。本研究では、西田の美学から出発し、どのように「永遠」が「体験」できるのかを考えていくが、それにあたってはドゥルーズと西田の比較を行う。つまり、スピノザとベルグソンの影響をうけたドゥルーズの「アイオン」（aiôn）の役割はどのようなものなのか、体験は潜在的（virtuel）なものを理解するためにどのように働いているのかという点である。もしもこの２点を西田の哲学と比較しながらある程度説明することができれば、時間論だけではなく現代の美学に対しても新しい解釈を生み出すことが可能であると考えられる

２．研究の目的

本研究においては、西田の思想の発展に伴う芸術哲学の変化を、時間論との関係において考察することを試みることを目的とする。特に西田とドゥルーズの美学を、時間論を通して比較していく。西田の美学と時間論は、仏教を基礎とした東洋思想と深く結びついているため、「永遠」をキーワードに双方を比較するという試みは、東洋的思想と西洋哲学との突き合わせという作業の先端部分でもあり、インターカルチャー的な視点でのより大きな比較思想的課題の発端をなすとも考えられる。

これらの作業は、西田の著作をイタリア語に訳しながら進めるため、適宜翻訳した原稿を出版し、成果を発信していくことにより、海外、特にヨーロッパにおける日本哲学への一層の興味喚起と、西田哲学のより深い理解、活発な議論をもたらすことが期待される。本研究は特に以下の 3 点の特徴を持つと言える。

１） 研究の国際性

研究代表者は、西田の『善の研究』、『場所』、『信濃哲学会のための講演』等の重要な著作について、イタリアの出版社から翻訳および解説を出版し、ヨーロッパに紹介してきた。イタリア語というヨーロッパの言語で日本哲学の翻訳を出版することにより、他の欧米諸国や中南米における日本哲学への接近をも促すことができると考えている。

２）西田における時間論・美学における「『永遠』の今」

西田哲学の重要なキーワードとなる「永遠の今」に関しては、すでに多くの論考がなされているが(小林等[4])、「今」に着目して論じられることが多く、「永遠」が何を意味するかという問いについては十分に議論が深まっていないように見える。ドゥルーズの言うアイオン（aiôn）を手がかりに、西田と比較しながら、「永遠」に着目して「永遠の今」に関しての考察を行う。

３）西田とドゥルーズ –時間論・芸術論を通した新しい比較研究
研究代表者は前科研費採択課題において、西田の美学を分析するためにデリダおよびドゥルーズとの比較を行なってきた。西田は 1941 年に『歴史的形成作用としての芸術的創作』を著し、多様な芸術に関する論考を残してはいるが、1945 年に没しているため現代の芸術に西田の思想が応用されることは積極的には行われてこなかった（「西田の芸術哲学が、今日の芸術理解に対してどのような可能性をもつか。このような問いには、積極的な答えは出てこない。」岩城[1]p432）。しかしながら、研究代表者は、西田における時間と芸術的な体験、身体が大きな要素となる美学的思想は、以下の点でドゥルーズのそれに非常に近いと考えている。
先ず、両者がベルグソンによる時間論を出発点としている点である。このため、ドゥルーズのいう「潜在的なもの」は、西田の「絶対無」に近いものである可能性がある。ベルグソンを懸け橋として両者の類似点を整理することができれば、西田の考えを（西田没後の）現代芸術の解釈に応用することができ、またドゥルーズを理解するためにも西田を用いることができるという双方向性の新奇性の高い考察が可能である。この点に関する学術的なインパクトは大きく、現代の美学においても影響力を持つ可能性がある。
さらに、ドゥルーズが時間論と身体論をどのように結びつけているかを考察し、ストア学派、スピノザ、ニーチェ、ドゥルーズという西洋思想における流れの中に西田を含めようとすることは、哲学の歴史的研究においても重要性が高いと考えられる。

３．研究の方法
本研究では、２つの前科研費課題で行ってきた時間論と存在論に関する研究を継続しつつ、時間論・美学の観点から西田の芸術論を考察し、身体と時間論の関係についてさらに深めていく。その際には、西田およびドゥルーズの美学を比較対照し、類似点を明らかにしたうえで考察を行なう。場合によっては、前科研費採択課題で取り上げたアリストテレスの「ファンタスマタ」（あるいは「ヌース・パテティコス」）や、デリダの言う時間的な「ファントム（亡霊）」が、美学と時間論を接続する重要な概念となるため、この点についてもさらに、アガンベンなどを参照しながら、作業を進めていく。
これらの作業と並行して、西田の著作のイタリア語翻訳を続ける。この翻訳作業は、翻訳それ自体を自己目的とするものではなく、西田の思想をイタリア語に訳すことによって、西田における日本語表現の射程と特質を明らかにする、という意味を持つ。研究課題開始前までに全集の第 10 巻（～1941）までのイタリア語翻訳の下訳が終わっており、この中から西田全集イタリア語版の第 2 巻として『思索と体験』、本研究課題に特に重要であり、西田独自の「永遠の今の自己限定」という概念が重要なテーマとなる『無の自覚的限定』の翻訳に向けて、先ずはその前提となる『働くものから見るものへ』の翻訳の精錬、出版を試みる。その後、もしも余力があれば、すでに半分は脱稿している『一般者の自覚的体系』の出版を試みる。

【引用文献】
[1] 西田幾多郎『西田哲学選集』第六巻、燈影社、1998 年
[2] 高梨友宏「＜芸術論＞としての西田哲学―西田幾多郎の対フィードラー関係をめぐって―」『美学』186 号、1996 年
[3] Marcello Ghilardi, Una logica del vedere. Estetica ed etica nel pensiero di Nishida Kitaro, Mimesis, 2009.
[4]小林敏明『西田哲学を開く―＜永遠の今＞をめぐって』、岩波現代文庫、2013 年

４．研究成果
2019 年度には、西田全集イタリア語版の第２巻として『思索と体験』を出版することができた。その後、『働くものから見るものへ』の翻訳の改訂を続け、2020 年度に翻訳を終了、コロナウィルス感染拡大によるパンデミックにより出版計画が大幅に遅れることとはなったが、2023 年度に第 6 巻として出版することができた。
コロナ禍下においては、2020 年度に、オンラインでの国際共同研究を促進するために、インターカルチャー哲学の国際研究グループ「Mushin'en」を立ち上げ、国際研究集会のオンライン開催を始めた。これらの国際的な研究活動は、2022 年に出版した拙論「西田幾多郎の思想における「永遠」概念の変遷をめぐる一試論」で本研究の成果をまとめ、深めていく過程で、より活発となった。
このことにより、西田研究の国際共同研究ネットワークを構築し、オンラインによる常設セミナー（Permanent Seminar on Nishida Philosophy）の実施を開始し、2023 年度末までに 7 回開催することができた。その他、ユトレヒト大学哲学科に招聘される等、国際共同研究を促進し、成果として西田幾多郎『私の立場から見たヘーゲルの弁証法』（伊訳）も出版することができた。これらのことにより、本研究における当初の目的はほぼ完遂できたと言える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Enrico Fongaro	４．巻 15
２．論文標題 Nishida tra Hegel e buddhismo - Sull'opportunita' di una filosofia interculturale	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Scenari	６．最初と最後の頁 48-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7413/24208914098	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 Enrico Fongaro	４．巻 10
２．論文標題 Trans/Formations - Tentative Remarks of the Practice of Kata as Bodily Experience of Time	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Transitions - Crossing Boundaries in Japanese Philosophy (Frontiers of Japanese Philosophy 10)	６．最初と最後の頁 112 - 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 フォンガロ・エンリコ	４．巻 35
２．論文標題 西田哲学の翻訳における諸問題-「感情」をきっかけとして	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東北哲学会年報	６．最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24521/tpstja.35.0_51	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕　計25件（うち招待講演　24件／うち国際学会　24件）

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Zen and Consciousness - On Nishida's concept of consciousness as 'place'
３．学会等名 Monthly lecture on consciousness (University of Lisbon)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Absolutely contradictory self-identity and time
３．学会等名 Readings of Nishida’s “Absolute Contradictory Self-Identity” 「絶対矛盾的自己同 一」(1939)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Eternity as a guest - On temporality in Nishida and Nishitani
３．学会等名 Nishida-Nishitani Workshop（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Filosofie del tempo: Eihei Dogen e Kitaro Nishida 1
３．学会等名 Scuola permanente di filosofia - Biblioteca G. Bedeschi (Arzignano)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Filosofie del tempo: Eihei Dogen e Kitaro Nishida 2
３．学会等名 Scuola permanente di filosofia - Biblioteca G. Bedeschi (Arzignano)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Filosofie del tempo: Eihei Dogen e Kitaro Nishida 3
３．学会等名 Scuola permanente di filosofia - Biblioteca G. Bedeschi (Arzignano)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Filosofie del tempo: Eihei Dogen e Kitaro Nishida 4
３．学会等名 Scuola permanente di filosofia - Biblioteca G. Bedeschi (Arzignano)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 On the bodily lived experience of storytelling: is an ethics of storytelling possible?
３．学会等名 物語の今（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 L’influenza dello zen nell’estetica interculturale di Kitaro Nishida
３．学会等名 Zen come ideale di vita e dell'arte（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名
Enrico Fongaro

２．発表標題
Emotion and Feeling in Japanese Philosophy

３．学会等名
“Philosophies and feeling”(東北大学)(国際学会)

４．発表年
2021年

１．発表者名
Enrico Fongaro

２．発表標題
L’universale e i linguaggi

３．学会等名
L’universale e la filosofia (Padova)　(招待講演)　(国際学会)

４．発表年
2021年

１．発表者名
フォンガロ・エンリコ

２．発表標題
永遠と体験ー西田幾多郎の時間論に関する考察

３．学会等名
東アジアにおける哲学の生成と発展ー間文化の視点から（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2021年

１．発表者名
フォンガロ・エンリコ

２．発表標題
道元と哲学

３．学会等名
第43回フッセルアーベント（東北大学）（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Some remarks on Nishida and Hegel, An attempt of reading Nishida’s "The Internal Perception
３．学会等名 Sternen-Freundschaft - Hegel, Nietzsche, and Japanese Thought（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 On some problems related to the translations of Yugen and Grazia in Japanese and Italian
３．学会等名 Images, Philosophy, Communication（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Aida e Luogo: Kitaro Nishida nel pensiero di Bin Kimura（あいだと場所：木村敏の思想における西田幾多郎）
３．学会等名 CIPA's Monthly Lecture（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Enrico Fongaro
２．発表標題 Lo zen nella filosofia moderna giapponese
３．学会等名 Corso triennale sul Buddhismo Zen（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

1．発表者名 Enrico Fongaro
2．発表標題 Politics of Translation
3．学会等名 Permanent Seminar on the Philosophy of Kitaro Nishida（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Enrico Fongaro
2．発表標題 Chora and basho in the thought of Kitaro Nishida
3．学会等名 Semiotic Chorologies? Critical and Generative Spaces in an Intercultural World (（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Enrico Fongaro
2．発表標題 Chora and basho in the thought of Kitaro Nishida Intercultural Philosophy and Translation issues
3．学会等名 Utrecht University Workshop/Discussion meeting: Perspectives in intercultural philosophy（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Enrico Fongaro
2．発表標題 Becoming "form" by destroying "form"; Some remarks on kata’s aesthetics I
3．学会等名 Utrecht University, Book Launch of Key Concepts in World philosophies（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名
Enrico Fongaro

2．発表標題
Introduction to reading Nishida ’ s An Inquiry into the Good (1911) A

3．学会等名
Utrecht University Philosophy Seminar（招待講演）（国際学会）

4．発表年
2023年

1．発表者名
Enrico Fongaro

2．発表標題
A Good Encounter: Plato and Buddhism at the Origin of Nishida's Concept of "Place"

3．学会等名
History of Philosophy Colloquium（招待講演）（国際学会）

4．発表年
2023年

1．発表者名
Enrico Fongaro

2．発表標題
Zen and Scientific Thought in Kitaro Nishida's Philosophy

3．学会等名
Philosophy and Physics Between Europe and Japan (1922-1953)（招待講演）（国際学会）

4．発表年
2023年

1．発表者名
Enrico Fongaro

2．発表標題
翻訳の諸次元ー日本とイタリアの場合

3．学会等名
日本宗教・日本哲学と翻訳（招待講演）（国際学会）

4．発表年
2023年

〔図書〕　計8件

1．著者名	4．発行年
Alfonso Cariolato（監修） Enrico Fongaro, Francois Bruzzo, Adriana Marigliano	2022年
2．出版社	**5．総ページ数**
CLEUP	118
3．書名	
Prospettive del contemporaneo. Quattro lezioni di filosofia	

1．著者名	4．発行年
Sarah Flavel (Anthology Editor), Chiara Robbiano (Anthology Editor), Enrico Fongaro, Mayuko Uehara, Michiko Yusa, Paul Ziche, Gereon Kopf, John C. Maraldo, Yoko Arisaka, Rein Raud, Ethan Mills他他36名	2022年
2．出版社	**5．総ページ数**
Bloomsbury	448
3．書名	
Key Concepts in World Philosophies	

1．著者名	4．発行年
ハイデガー・フォーラム（編）秋富克哉・安部 浩・古荘 真敬・赤塚弘之・阿部将伸・荒畑靖宏・有馬善一・池田喬・石原孝二・伊藤直樹・魚住孝至・大竹弘二・大橋良介・小田切建太郎・フォンガロ　エンリコ・カイリング　トビアス・グロッサー　フロリアン・デービス　ブレット・フェレル　オルテガ・ギレルモ　ペレス・ガティサ　セルギオ他著	2021年
2．出版社	**5．総ページ数**
昭和堂	640
3．書名	
ハイデガー事典	

1．著者名	4．発行年
廖欽彬・伊東貴之・河合一樹・山村奨（編著）藤田正勝・嶺秀樹・安部浩・上原麻有子・杉村靖彦・亀井大・フォンガロ・エンリコ・竹花洋佑・浜渦辰二・谷徹・植村玄輝・景山洋平・倪梁康・方向紅・朱剛・張偉・鈴木将久・王嘉新・陳徳中・洪子偉・牧野英二・合田正人・秋富克哉・植村和秀・林永強・張政遠・飯嶋裕治・佐藤麻貴他11名（著）	2022年
2．出版社	**5．総ページ数**
法政大学出版局	886
3．書名	
東アジアにおける哲学の生成と発展	

1．著者名 Leon Krings (著), Francesca Greco (Editor), Yukiko Kuwayama (Editor), Yoko Arisaka, Bret W. Davis, Enrico Fongaro, Alberto Giavomelli, Lorenzo Marinucci他8名著	4．発行年 2021年
2．出版社 知足堂	5．総ページ数 433
3．書名 Transitions: Crossing Boundaries in Japanese Philosophy	

1．著者名 Kitaro Nishida (著), Paolo Livieri (監修), Enrico Fongaro (翻訳)	4．発行年 2023年
2．出版社 Mimesis	5．総ページ数 116
3．書名 Kitaro Nishida, La dialettica di Hegel vista dalla mia prospettiva	

1．著者名 Kitaro Nishida (著), Enrico Fongaro (監修・翻訳)	4．発行年 2023年
2．出版社 Mimesis	5．総ページ数 474
3．書名 Opere di Kitaro Nishida vol. 6 - Dall'agente al vedente	

1．著者名 Kitaro Nishida (著), Enrico Fongaro (監修・翻訳)	4．発行年 2019年
2．出版社 Mimesis	5．総ページ数 284
3．書名 Opere di Kitaro Nishida vol. 2, Pensiero ed esperienza vissuta corporea	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際インターカルチャー哲学研究グループ https://www.mushinen.com/ Intercultural Philosophy Research Group https://www.i-mart.it/philosophyresearchgroup/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Nishitani Keiji Workshop on the Philosophy of Religion: First Session, Nishitani Keiji and Mysticism	2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イタリア	パドヴァ大学	ローマ　ラ・サピエンツァ大学	ボローニャ大学	
オランダ	ユトレヒト大学			
ポルトガル	リスボン大学			
ドイツ	ヒルデスハイム大学			
スペイン	バルセロナ大学			
ベルギー	ヘント大学			
ポーランド	ヤゲヴォ大学			